
魔女と天使

鳳雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔女と天使

【Nコード】

N6208Y

【作者名】

鳳雅

【あらすじ】

人間が天使に魔女にされ、世界への復讐を誓う。
しかし、すべては計画されたシナリオだった。
それを知った時、魔女は……。

第一幕 ？（前書き）

ダークファンタジーのような世界を描きたく、拙い文章ですが書いてみようかと思いました。

第一幕 ？

世界には、七つの大罪と言われる欲望があり、その大罪を謳う天使が存在する。

天使は大罪の力で、人をたぶらかし、その存在を魔女へと変貌させ、人の世界に干渉する。

何万年と続いた天使達の遊戯。

しかし、それを止める魔女が現れた。

物語は、嫉妬の天使『レディア』と、この天使に魔女へとされた『フラムネリア』の戦いの起源から始まる。

フラムネリアが生まれ育ったのは、ガラストエルという大陸にある小さな村だった。

彼女には、傷を癒したり病気の苦しみを緩和したり、人の苦しみを取り除く特殊な力があつた。

村人は、他者を慈しむフラムネリアの姿を見て、いつしか彼女を女神と称え、敬愛していた。

しかし、戦争が絶え間なく続くこの世界では、彼女は邪魔な存在として、他国の王『グラエム』が村へと侵攻することを決めていた。

それを知った自国の王『ケイウス』は、民にとってかけがえのない存在である彼女を救うため、恋人であり守護騎士である『ランシエルド』を向かわせた。

これが、レディアとフラムネリアの戦いへの発端となつたのである。

「フラン、俺が到着するまで無事でいてくれ……」

そう願ひ、祈り、無意味な行いだと理解していても、その場に着くまでは神に頼るしかなかった。

彼が率いる部隊は、誰しもが女神フラムネリアのもとへと急ぎ駆けつけ、救うことだけを考えていた。

その矢先のことである。「ランス隊長！この先の村への入り口である林の前に、我が隊を遥かに上回る敵兵が集結しています！このままでは……」

斥候からの報告が、どうにもならない状況をランスに突き付けていた。

しかし、ここで諦める訳にはいかない、そう思う彼は部下に命じる。「テリウス、お前は自分の部隊を率いて村へと行け。俺は残る部隊で時間を稼ぐ」

「分かりました……っ。どうかご無事で！必ずまた、隊長とフラン様の——二人の笑顔を我々にお見せください！」

ランスの覚悟を感じ取ったテリウスは、自分ではなくランスに行かせたい気持ちを抑え、村へと急いだ。

程なくして、村から人がこちらに走ってくるのが見えた。

「テリウス殿、一人女がこちらに向かって来ていますが、村の人間でしょうか？」

部下の指を差す方を見ると、確かに走ってくる女の姿が確認できた。しかしそれが誰なのか、彼には瞬時に理解できていた。

「馬鹿者！あの方は女神フラムネリア様だ！よくぞご無事で……」それを聞いた瞬間、部下全員が一斉にひざまずいた。

「も、申し訳ありません！林で日陰ており確認が至りませんでした！」

「言い訳はいい！ただちにフラン様の護衛に入るぞ！」

だが、フラムネリアはテリウスに思いもよらないことを言う。

「テリウス様、この戦いほど無意味な物はありません。わたしがかの国へと捕らえられれば、それで済むこと……」

しかし、次の言葉を伝えようとした時、それは起きたのだった。

第一幕 ？（後書き）

中途半端ですが、とりあえずここまで投稿します。
少しでも楽しそうと感じていただけたなら、続きもよろしく願います。

第一幕 ？（前書き）

第一幕 の続きです。

第一幕 ？

フラムネリアの向いている方角、つまりはテリウス達の背後から、無数の矢が飛んできていた。

その不意の攻撃により、部隊の七割がやられてしまった。

「何故だ、こうも早く我らに追いつけるはずは……」

テリウスは動揺を隠しきれずにいた。

自分達の背後は、隊長であるランシエルドが守っているはず、いかに戦力に差があつたとしても、そう易々とはやられはしないはずだと。

「不思議かね？こんなにも早く来るなどあり得ない——つまりは君達の隊長殿がやられるには早すぎると」

さらに、男は下劣な笑みを浮かべながら言う。

「クククツ、死んだよ？無惨に、無情に、無意味にな。絶対的な戦力の差には、あの程度の数では足止めさえも満足にできないのだよ。それが絶対であり、真実なのだ」

辛うじて矢が外れ、生き残ったテリウスの部下達をあざわらうかのように話した後、男は弩兵に命令を下す。

「殲滅しろ」

一斉に放たれた矢の前に、立っている者はいなかった。

「フラン様……どうかお逃げください……。どうか……。どうか……！」

それだけを言い、テリウスは大地に伏して動かなくなった。

「こんな小娘一人に、このような大軍で我らはやって来たのかと思うと、情けなさを通り越して笑いが込み上げてくる」

多数の死体の中心で立ち尽くすフラムネリアに、男は冷笑の中に苦汁の色を滲ませながら詰め寄る。

それでも、彼女は恐怖を振り払い、ただ一つだけ男に尋ねる。

「彼は……ランスは本当に……」

「死んだよ。私がこの手で止めをさしてやった。無様に顔を泥に突っ込んで、見ていられなかったよ、栄えあるパラディン様の惨めな姿。クツクツ」

フラムネリアの心に、一つ一つ傷をつけるように、男は言葉を連ねていく。

「何故……こんな、こんな争いなんてしなくても！わたしは誰かに危害を加えようなどと、一時だって考えたことなんてなかったのに……ただ、皆が幸せで、隣にランスがいてくれれば、それでよかったのに……」

“こんな世界、消えてなくなればいいのに”

「え……？」

“ただ皆を助けて、笑顔を増やして、幸せな姿を見ていたかっただけなのに。”

争いが無くならなければ、それが起きる世界を消してしまえばいいんだ”

「誰なの！？」

「何を一人で言っている！感傷のあまりに気でも違えたか！」

“うるさい、黙れ！”

「うるさい、黙れ！」

感情が溢れていくようだった。

これは何なのだろうか。

怒りとも違う、もつと心にまとわりつくような感覚、そうこれは――

“妬みだ。お前は世界に嫉妬したんだ。自分だけから幸せ奪い、それ以外の人間を変わず愛し続ける世界への嫉妬。だが、それこそが、その感情こそがお前に力をくれる。願え、力を！復讐するのだから、世界に！”

「聞いているのか小娘！ぶつぶつと何を――」

だが、話終える前に、男の体は大地へと倒れ伏していた。

その姿は、先程聞いたランシエルドの死に様と違わぬもので。

「下郎の分際で、気安く話しかけてくれるかしら？アツハハ、これがわたしの力なのね。良いじゃない、ねえレディア」

“なるほど、お前の力は、他者の魂を喰らう《ソウルイーター》か。その力も、使いこなせば様々な使い方が出来るようになるだろう”
これが、魔女と天使の初めての出会いだった。

女神と呼ばれた人間であつたが故に、命を狙われ大切な全てを奪われ、人を助けてきた女神の頃とは真逆の力を得た、魔女フラムネリア。しかし、これは嫉妬の天使レディアの計画したシナリオの、ほんの一部にしか過ぎなかった。

そして、そのレディアの計画を陰で知る、色欲の天使『アスデリーチエ』との邂逅の時は、すぐそこまで迫っていた。

第一幕 ？（後書き）

第一幕 はこれで終わりです。

次回より 第二幕 になります。

引き続き少しでも気になっていただけたなら、
第二幕 もよろしく
お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6208y/>

魔女と天使

2011年11月20日10時38分発行